



2022年8月4日
東日本旅客鉄道株式会社

「JR東日本グループレポート 2022 (INTEGRATED REPORT)」の発行について

- ◇ JR東日本は、2022年度版の統合報告書「JR東日本グループレポート 2022 (INTEGRATED REPORT)」を発行しました。
- ◇ JR東日本では2020年度より統合報告書を発行し、多様なステークホルダーに向けたワンストップの情報発信に取り組んでいます。なお、本レポートは「鉄道事業法」に基づき公表する「安全報告書」を兼ねています。
- ◇ 今回の統合報告書では、グループ経営ビジョン「変革 2027」および「変革のスピードアップ」で掲げる成長戦略のほか、財務情報や2021年度の安全とESGの取り組みなどを記載しています。

1 主な内容

○表紙【水素ハイブリッド電車 ^{ひばり} HYBARI】

JR東日本グループにおける脱炭素社会実現に向けた取り組み、そして社外と連携したイノベーションの象徴的な取り組みであることから、水素をエネルギー源とする水素ハイブリッド電車（HYBARI）を表紙としました。



※本写真をトリミングして表紙にしているため、実際の表紙とは異なります。

○JR東日本グループの価値創造

JR東日本グループが認識しているマテリアリティ（重要課題）に始まり、社会に提供してきた価値やそれらを通して培った強みを具体的な数値・事例とともに掲載しています。あわせて、それら強みをベースにした今後の事業展開や目指す姿を掲載しています。

○経営戦略（成長戦略の解説）

トップメッセージに加え、グループ経営ビジョン「変革 2027」および「変革のスピードアップ」の概要を掲載しています。「変革 2027」の進捗として、重点戦略に言及するとともに、サステナブルに成長を続けるための「組織の見直し」や重要な成長戦略である「高輪ゲートウェイシティ（仮称）」の開発を掲載しています。

○サステナビリティの取り組み

「安全」「環境」「社会」の3セクションに分け、JR東日本グループの具体的なサステナビリティの取り組みを掲載しています。環境セクション掲載のTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言への取り組みでは、自然災害により生じる物理的リスクの試算として利根川・江戸川・多摩川の氾濫シナリオに基づく財務的影響額の定量評価を実施し、開示しています。

○グループの価値向上を支えるガバナンス

社長・社外取締役・監査役による鼎談を掲載し、「変革2027」の実現に向けて、どのようにガバナンス体制を進化させていくべきか、それぞれの立場からメッセージを掲載しています。企画部門に限らず、現業機関における具体的なガバナンスの取り組みをお伝えするために、人的資本経営の考え方や社員の意欲に応える仕組みや取り組みを掲載しています。また、知的財産活動とサステナブル調達を新たに掲載しています。

○データセクション

JR東日本グループの財務諸表等の財務データ、各種データを掲載しています。

2 発行媒体

- ・ JR東日本ホームページでご覧いただけます。 (<https://www.jreast.co.jp/eco/pdf/>)
- ・ 冊子版をご希望の方は、(有)インフォワードの運営する「エコほっとライン」(無料)からお申し込みください。なお、冊子版のご請求受付は9月上旬頃から開始する予定です。
(エコほっとライン <https://www.ecohotline.com/>)